

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成21年10月22日(2009.10.22)

【公開番号】特開2006-158492(P2006-158492A)

【公開日】平成18年6月22日(2006.6.22)

【年通号数】公開・登録公報2006-024

【出願番号】特願2004-351093(P2004-351093)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年9月8日(2009.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の可動体を備え、該可動体が作動する演出を実行したあとには遊技者に有利な状態を付与するよう働きやすい遊技機であって、

第1演出パターンと第2演出パターンを記憶する演出パターン記憶手段と、

演出パターンを実行する演出パターン実行手段と、

前記複数の可動体に不具合が生じているか否かを判定する不具合判定手段とを備え、

前記演出パターン実行手段は、電源投入時又はリセット時において、前記不具合判定手段により前記複数の可動体に不具合が生じていないと判定されたとき前記演出パターン記憶手段に記憶された第1演出パターンを実行する一方、前記複数の可動体に不具合が生じていると判定されたとき前記演出パターン記憶手段に記憶された第2演出パターンを実行することを特徴とする遊技機。

【請求項2】

前記第1演出パターンは、前記複数の可動体をすべて動作させる演出パターンであり、前記第2演出パターンは、不具合が生じていない可動体のみを動作させる演出パターンであることを特徴とする請求項1に記載の遊技機。

【請求項3】

前記第2演出パターンは、特定の可動体が他の可動体と接触又は干渉しないよう該特定の可動体と該他の可動体とを動作させる演出パターンであることを特徴とする請求項2に記載の遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

請求項 1 の発明においては、遊技を開始するときに遊技者の遊技意欲を損なうことを防止することができる。請求項 2 の発明においては、どの可動体に不具合が生じていないか判断することができる。請求項 3 の発明においては、可動体の損傷を防ぐことができる。